

平成28年度学校自己評価表(最終評価)

学校運営方針

1 「チーム倉北！」～感動の学校づくり～を合い言葉に、チーム力で目標を達成する。
 2 「倉吉北高魅力化プロジェクト」にチームで取り組み、倉吉北高の魅力化を図る。

今年度の重点目標

1 「倉吉北高魅力化プロジェクト」の実効ある取り組み
 2 人間力の向上
 3 募集定員の充足

評価基準 A:概ね達成 (80%程度以上) B:変化の兆し (60%程度) C:まだ不十分 (40%程度) D:方策の見直し (30%以下)

評価項目	具体項目	年度当初		評価結果		
		現状	具体的方策	経過・達成状況	改善方策	
倉吉北高ビジョンの策定	本校の歴史・伝統を尊重するとともに、一貫性と継続性のある新たな学校の在り方を検討し、普遍性のある中長期的将来ビジョンを策定する。 <指標> 普遍性のある将来ビジョンが策定され、理念を表す概念図が完成している。	これまで、時代の変化や生徒の現状に応じて様々な改革が行われてきたが、継続性と一貫性にやや難があり、途中で断念した取組みもあった。その結果、内外に誇りうる倉吉北高らしさを打ち出せていない。	「倉吉北高魅力化プロジェクト」実行委員会(運営委員、コース・科主任)を定期開催し、将来ビジョンを検討する。 ・全教職員がプロジェクトチームの一員であるとの自覚を持ち、意識して積極的に意見を述べるようにする。また、各科・コース会議及び部会や学年会等で意見を吸い上げ、全教職員でビジョン作成に取り組む。	「倉吉北ビジョン」を策定することができた。 本校の建学の精神である「松柏精神」を本校教育の根本理念とし、志高く、信念を貫く生徒の育成を目指すことを普遍的な目標とすることができた。 ・「倉吉北ビジョン」に基づき、募集定員165名を充足するために何ができるかアイデアを出し合っている。	「倉吉北ビジョン」の理念を生徒、保護者、教職員が共有できるよう、様々な印刷配布物に取り入れる。 ・式典、集会等で「倉吉北ビジョン」の考え方を啓発する。 ・生徒、保護者、教職員へのアンケート等で「倉吉北ビジョン」を評価し、修正する。	
	「倉吉北高魅力化プロジェクト」の実効ある取り組み	各科目・コース及び各部・学年等における従来からの取組みを分析、整理し、情報が全教職員に共有され、実効ある取組みとなっている。 <指標> 各取組みの分析、整理が80%程度以上進んだ。情報が共有されている。	本校は、調理科、特進コース、健康スポーツコース、総合コースなど他校にない特色ある学科・コースを設置し、魅力化を図って来た。また、従来から、本校教育充実のために様々な取組みを行い成果を上げている。しかし、各科・コース及び各部・学年が学校運営方針に沿って明確な目標を掲げ、全教職員が情報を共有してチームで取り組む体制には至っていない。	「倉吉北高魅力化プロジェクト」実行委員会(運営委員、コース・科主任)を定期開催し、従来の取組みを分析、整理する。 ・各科・コース及び各部、学年の目標設定、組織、実施方法、成果等を分析し、より効果的で、魅力的な取組みを検討する。 ・全教職員がプロジェクトチームの一員であるとの自覚を持ち、意識して積極的に意見を述べるようにする。	・奨学制度の改定。S、A、K支出基準の適正化を図る。 ・全教職員の授業公開を実施。 ・学校説明会の内容改善を行った。生徒に説明させる、学校紹介DVDの制作など。恒例の「旬祭展」をパープルタウンで行った。 ・学校案内パンフレットの改訂。 ・生徒募集要項の改訂。 ・「新入生のしおり」「寮生のしおり」を改訂。 ・中学校からの入試改善に関する指摘を受け入れた。 ・「報道相」の徹底を図る。いじめ防止対策委員会の迅速な開催。 ・授業時間数確保の観点から年間行事予定を見直すことができた。	・平成30年度教育課程の策定。 ・図書館の移転。 ・シラバスの改訂。 ・進路指導年間計画の改定。 ・入試問題検討会の開催。 ・国際理解教育の推進(香港・マカオ) ・分掌組織の再編。 ・人事評価の実施。 ・事業計画の策定。 ・ホームページのリニューアル。 ・冊子「松柏」(本校教育1年間のまとめ)
	他校にない特色ある取組みの企画	他校にない特色ある取組み、或いは従来の取組みの革新などが企画され、実施に向けた準備が整っている。 <指標> 企画書が完成し、実施に向けた打合せが行われている。	現状において、既に他校にない特色ある学科・コースを設置し、魅力化を図っている。しかし、各科・コースとも定員を充足しておらず、特色を活かしているとは言えない。また、学科・コースの特色以外の倉吉北高ならではの特色ある取組みがPRできていない。	「倉吉北高魅力化プロジェクト」実行委員会(運営委員、コース・科主任)を定期開催し、新たな特色づくりを検討する。 ・各科・コースの取組みを再検討するとともに、新たな特色の創出について意見交換する。 ・全教職員がプロジェクトチームの一員であるとの自覚を持ち、意識して積極的に意見を述べるようにする。	・主権者教育の観点から、3年生全員が倉吉市議会を傍聴した。 ・市議会傍聴を高校生議会に発展させたいと考えていたが準備が間に合わず実施できなかった。 ・魅力化プロジェクトにおいて、教職員の様々な意見をまとめることができた。実現は今後に期待。	・教育課程の改定等を通して他校にない魅力を打ち出す。 ・市議会傍聴、高校生議会を企画成功させる。 ・総合的な学習の時間において探究的な取組みを行う。
学力の向上	・学力の向上とは生きる力・人間力の向上ととらえて、すべての生徒が自分のキャリア形成にむけて、個性に応じた学力を身につける努力をしている。 ・すべての生徒が授業に意欲をもって参加し、基礎基本の学力を身につけるとともに進路に応じた発展的な学習に取り組んでいる。 ・各教科の授業・総合的な学習・特別活動・読書活動など教育活動全体を通じて、生徒一人ひとりの表現力・コミュニケーション能力の向上をはかる取組みが推進されている。 ・すべての教職員が学力向上にむけて共通研究テーマを設定し、各教科で授業研究(研究授業・授業評価による点検・校外での研修など)を通じた教育改善を行っている。 <指標> ・基礎力テストや各種模試の過年度比較において、生徒の学力・成績が向上している。 ・各学期末の成績や進級・卒業認定において、生徒の成績状況が改善している。 ・研究授業の参観者が増え、日常的に教科を横断した教育実践の交換が行われている。	・キャリア形成に対する意欲や意欲が未発達な生徒が多く、日々の学習の取組みが各自の将来を見すえた主体的・継続的なものになっていない。 ・授業を受ける態度は真面目な生徒が多い。とはいえ、家庭学習の時間が少なく主体的な取組みとなっていない生徒が多い。 ・朝学習(マナトレ・朝読書)の実践による基礎学力の向上が見られるが、一方で基礎学力の積み上げができていない生徒の学び直しについての取組みを確立できていない。 ・教育活動全体の点検、表現力・コミュニケーション能力を高める教育実践の工夫が、学校全体として不十分である。 ・研究授業がなかなか実施できず、教育改善のための教職員の意識の共有が不十分である。	・総合的な学習の時間についてカリキュラムの再構築を行うとともに授業科目との連携をはかり、また、生徒が個々の将来を見すえた学習に取り組む意識付けのため、学習ファイルを持たせて学習の積み上げを行う。 ・遅刻の撲滅やチャイム席・挨拶の徹底など生徒が授業に集中するための取組みを徹底する。生徒の実態に応じた授業展開を工夫するとともに、日常的に家庭学習課題を課し、小テストによる復習を実施するなど、生徒が主体的に学習する仕組みを工夫する。 ・朝学習の状況を定期的に点検(夏・冬休み明けテスト、学年末の認定テストを実施)しながら学習意識の定着に向けた生徒の意識付けをはかり、基礎学力不足者に対する手当て(学力補充の時間確保など)を行う。 ・生徒が表現力やコミュニケーション能力を高めることができるような授業実践の研究を各教科で進めるとともに、週番・生徒会活動や部活動を通じて日常的に生徒の表現力を高める。 ・授業の充実に向けて、共通研究テーマに基づいた職員全体研修を行うとともに、教員全員が年1回授業公開(校内)を行い、また各教科においても授業研究会を年1回以上実施する。	・総合的な学習の時間のカリキュラム再構築については、各領域との情報交換と研究にとどまり、生徒個別のキャリア形成ノートの作成にまでは至らなかった。 ・遅刻ゼロをめざす。また、チャイム席・挨拶の徹底については、教室に標語札をかけた。遅刻ゼロの日の啓発活動を行った。遅刻が全くない日も増えてきている。 ・年度中途の年間行事予定の点検と見直しにより、授業時間数の確保を確実にすることができた。家庭学習課題や小テストによる学習推進は、まだまだ徹底できていない。 ・休み明けテスト及び学年末認定テストを実施し、朝学習(マナトレ)による学習意欲と基礎学力の向上を少なからず実感した。学力の積み上げができていない生徒の学び直しについては未だ形をつくることが出来ていない。 ・「アクティブラーニングの実践」については、学校全体で推進に向けて大きく前進できた。全教員(常勤)の研究授業公開(26回)と教科内研究会、実践先進校視察、研修会への派遣研修(6回のべ13名)を実施して、生徒ひとりひとりが周囲の仲間とともに考察・表現する学習について、教職員が理解を深めた。 ・生徒の週番活動では朝の会等の進行など表現力やコミュニケーション能力を高めるための実践が行われたが、他の活動、特に授業においては、まだまだ表現力を高める実践にはなっていない	・総合的な学習の時間については、来年度は改めてカリキュラムの再構築を行い、さまざまな教育活動とともに位置づける。そして、その連携効果を確実にするため、生徒に学習ファイルによるふり返りと工夫を行なわせる。 ・遅刻の撲滅やチャイム席・挨拶の徹底など生徒が授業に集中するための取組みを、生徒会・週番など生徒自身と協力して更に徹底する。生徒の実態に応じた授業展開を工夫するとともに、日常的に家庭学習課題を課し、小テストによる復習を実施するなど、生徒が主体的に学習する仕組みを確立する。 ・朝学習の定期的な点検(夏・冬休み明けテスト、学年末の認定テスト)の成果をもとに、基礎学力不足者に対する手当ての仕組み(学力補充の時間確保など)をつくりあげる。 ・生徒が表現力やコミュニケーション能力を高めることができるような授業実践に関して各教科でテーマを決めた研究会を開くとともに、週番・生徒会活動や部活動を通じて日常的に生徒の表現力を高める活動を徹底する。 ・授業の充実、アクティブラーニングの実践に向けて、外部講師を招聘した職員全体研修(示範授業と講義)を2回以上開催し、そのうえで、研究テーマをかけた授業公開を教員全員が年1回行なう。また各教科においても授業研究会を必ず年2回以上実施する。	
進路目標の実現	どの生徒も、基本的な生活習慣確立されていることが進路実現につながることを理解している。適切な進路目標が設定され、本人、教師、保護者が一体となって、すべての生徒の志望が実現している。(指標) 難関大学1名以上、国公立大学10名以上。就職率100%。面接でしっかり自分を表現できる。	・前向きに頑張る生徒が多い。 ・安易で無難な進路選択をする生徒もみられる。 ・本人、教師、保護者が一体となって、生徒の志望が実現しているが、離職する生徒もいる。 ・国公立大3名合格。	・2年次にインターンシップの実施。 3年生の2年生に対する「合格者の声」講演会を実施。 ・1、2年次に学問系統別ガイダンス、職業別ガイダンスを実施。 ・4月、1、2年進路講演会、3年プレゼンテーション講演会を実施。 ・進路希望に特化した講演会、ガイダンスを実施。(看護、公務員) ・小論文講座、プレゼンテーション講座の実施。 ・自己表現訓練講座の実施(年5回) ・放課後学習、土曜日演習の充実。 ・学校での進路行事をHPに掲載する。 ・担任、学年団、生徒一人一人の情報共有と、それに基づく個人面談もしくは3者面談を随時実施。 ・面接指導の徹底。(担任・学年団・各部部长・管理職による3段階面接の実施) ・青友会と連携し保護者向けのガイダンス、講演会を実施。	・2年次にインターンシップ職業観と社会性に触れることができ成果はあった。 ・合格者の声を実施できなかった。なかなか時間が取れなかった。 ・中学生向けに作った進路紹介、先輩へのアドバイスはい取組であった。自分の進路活動を振り返るとともに、広報活動の一環としても意義があった。 ・ガイダンスは実施。感想等見ても生徒たちは大きな刺激を受けていた。 ・講演会を実施した。外部機関に任せると資料請求が少し戸惑いもある。 ・小論文講座は実りが多かった。3年の社会人によるプレゼンテーション講座はよかった。 ・看護、公務員については外部模試の紹介のみに終わった。 ・放課後、土曜日演習は教員の人手不足で1年で開講しない日があった。生徒の方にもっと意識させ、形骸化しないようにしたい。 ・情報共有はさらに綿密に行う必要がある。 ・3段階面接だが、3年団任せになってしまった。情報共有、面談を有機的に行う必要がある。 ・保護者に対しては、奨学金、就職ガイダンス、学校見学(鳥看、鳥聴)を行い、またHP等で紹介した。さらに、本校進路教育の理解を進める必要がある。	・行事等はそのままいいと思うが、生徒に自分が学んだことをアウトプットすることで理解を深め、また、発表することでコミュニケーション能力を身に付けさせる等の工夫が必要である。そのため、行事計画を立てる際、そのことを意識し計画立案をしたい。 ・年間計画に進路教育ホームルームという枠をもうけ、計画的に進路指導をしていく。また、生徒にもそれを告知しておく。 ・定期的に情報共有をおこない、それに基づいた生徒面談を実施する。 ・進路指導の取り組みを保護者、外部に発信していく。HP、広報誌等。 ・公務員、看護については、早くから生徒に対し補習計画を組むなどする。さらにそれを外部にアピールすることで生徒募集につながる。	
人間力の向上	分離礼が徹底され、校内外で明るい挨拶ができる。また、掃除が徹底しており、校内及び学校周辺が美しく整備されている。自らの「在り方生き方」を考える機会が多い。 <指標> どの生徒も分離礼が徹底している。どの生徒も積極的に掃除に取り組んでいる。「在り方生き方」を考える機会が設定されている。	・美しい分離礼ができる生徒も多いが、あいさつのできない生徒や声の小さい生徒もいる。多くの生徒が真面目に掃除に取組み、校内はきれいだが、一部に取り組みが不十分な生徒もいる。 ・人権教育、キャリア教育など「在り方生き方」について考える機会が設けられているが、自分自身の現在の生活や将来の生き方に活かされていない生徒もいる。	・教員が生徒の見本となるようにする。(挨拶・姿勢・行動など) ・教員は、日頃から挨拶、名前を呼んでの声掛けなど、生徒のことを見ているという姿勢を、生徒に気付かせる。 ・学期末終了前に、個人の活動(学習への取り組み・部活動の取り組み)や、クラス内での活動(クラス内目標など)を振り返る時間を作り、新たに目標設定するなどの機会を設ける。 ・ボランティア活動や、部活動での成果を、掲示板などを活用し、全校生徒に見えるようにする。 ・挨拶運動を活発化させる。挨拶の意義の説明をする。 ・風紀委員会と協力しての服装頭髪検査を実施する。 ・服装頭髪検査による一覧表を作成する。 ・清掃状況チェック、および情報共有をする。	・教員一人ひとりが、「見本となる」という意識が継続できていなかった。 ・生徒への声かけ、アプローチする際に、名前を呼ぶことはできていた。 ・学期末に限らず、個人の活動や、クラスでの取り組みを振り返ることや、新たに目標設定をする時間を学校全体で設定することができていなかった。ただし、各教科の先生や、学年集会、LHRなどで、在り方、生き方を考える機会が多かった(鳥取中部地震などを経験したことで)。 ・ボランティアの取り組みは活発になっていると感じるが、偏っている。生徒の活動の成果を掲示し、見えるようにはできなかった(職員室外・図書室前)。	・授業をしないクラスの生徒も、教員が顔と名前を把握する。 ・廊下での挨拶を生徒だけでなく、教員同士も声かけをして、教員も繋がっていることを生徒に示す。 ・普段のHHRや、学年集会で、生きていることは生かされていること、教員、生徒が互いに意識するよう話をする。	

評価基準 A:概ね達成 (80%程度以上) B:変化の兆し (60%程度) C:まだ不十分 (40%程度) D:方策の見直し (30%以下)

		年度当初		評価結果			
評価項目	具体項目	現状	具体的方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
部活動の進展	どの生徒も部活動に積極的に参加し、人間力を向上させている。 ＜指標＞部活動加入率90% 全国大会入賞個人・団体合わせて5つ以上。 前年度の成績を上回る部活動が半数以上となる。	・部活動に参加している生徒の数は増加傾向にある。 ・全体的には 65%程度の加入率となっている。 ・前年度は全国大会にてゴルフ部(優勝)、陸上部が全国大会にて入賞しており、中国大会、県大会にて優勝及び入賞を果たしている。	・自分自身の人間力を向上させる意味でも部活動を行っていない生徒に部活動を面談等を通して呼びかける。 ・顧問を開き、練習場所を効率良く確保するよう調整をする。 ・部結成を行い部活動に入部する機会を増やす。 ・トップアスリート事業を利用し、有名コーチ、有名選手を招いて向上を図る。 ・強豪校、先進校へ積極的に赴き能力向上を図る。	新学期早々に部結成を行い、部活動入部希望者が増加した。 入部者を増やすには良い機会となった。 途中で部活動を辞めてしまう生徒が多く見られ、継続して活動できるような環境が必要と思われる。 各部活動間の情報交換など交流の機会が少なかった。	B	学校全体として部活動加入率を上げ、しっかりとした常時活動や結果の残せる活動となるよう、顧問などの指導者が自主的に部活動を支え、向上を目指す。 各部活動間の連携を強固にし、話し合いの場や交流の機会を作っていく。	
	生徒会活動の活性化	どの生徒も生徒会活動に積極的に参加し、人間力を向上させている。 ＜指標＞生徒会執行部や各種委員会などリーダーの活動が活発である。「感動の北高祭」「感動の運動会」をめざす。	・委員会活動は学期ごとに目標を決め、学期始めに発表する。 ・生徒会執行部自体は、熱意を持って活動している生徒が増えている。 ・北高祭では実行委員会を結成し委員長、執行部を中心に開催している。 ・運動会は体育委員会、執行部中心の進行・運営で行っている。	・各委員会の活動を活発にし、会合を定期的に行い、目標達成を積極的に呼びかける。 ・執行部による「生徒会新聞」を作成し、生徒会活動への理解と参加を全校生徒に促していく。 ・北高祭、運動会への取り組みを早期に行い、リーダーがリーダーシップを発揮し、各クラスの実行委員を活動させ、企画運営の充実、感動を呼ぶ行事とする。	委員会活動は各委員長、執行部の担当者によって温度差があり、自主的に常時活動している委員会が決まっていた。 生徒会執行部編集制作の生徒会新聞を発行した。	B	継続して各委員会の常時活動を呼びかける。 生徒会執行部としての活動に自主性を持たせリーダーとしての自覚を持たせるようにする。
学校行事の充実	すべての生徒が学校行事に積極的に参加して主体性・協調性を育み、生きる力・人間力を向上させている。 ・学校行事などすべての特別活動に明確なねらいが設定されており、生徒の企画力や運営力、リーダーシップの育成がはかられている。 ・全ての学校行事が充実した、生徒にとって感動を高めるものであり、地域・中学生に対して本校の魅力の発信に大きく寄与している。 ＜指標＞アンケート「学校行事が充実している」の評価A及びBが85%以上	・多様な学校行事が用意され、多くの生徒が行事を楽しんで参加している。(主な行事＝1年宿泊研修、2・3年バス遠足、北高祭、運動会、強歩大会、1年スキー研修、2年修学旅行) ・生徒が学校行事のなかで主体性を発揮する場面はあるが、まだまだ多いとはいえない。(北高祭でも多くの生徒は取組みが受動的で、個々の生徒の人間力を伸ばせていない。) ・個々の学校行事は年々工夫され楽しいものとなってきているが、生徒が感動し、地域・中学校から「この行事は倉北の魅力だ」と言われる行事にはなっていない。 ・全ての学校行事の目的が、他の教育活動(授業・特別活動など)とともに、本校の教育全体や「松柏精神」のなかに、明確には位置づけられてはいない。	・学校行事の位置付けや目的・育てたい生徒の力、そして他の教育活動との連携などについて、全教職員で検討協議して明確にする。 ・学校行事に関する生徒・保護者の意見や思いの集約や教職員の協議により、生徒が主体的に取り組むことのできるプログラム、生徒が人間力をのばしかつ単発的ではないプログラムに改善する。 ・上記2点を推進することで、北高祭ならではの学校行事を実施する。 ・生徒会執行部生徒や部活動のリーダー的生徒が、各学校行事についても、主体的・自主的な企画・運営の力を発揮できるように、支援・指導を行う。 ・授業時数の確保・地域との連携(への発信)のため、学校行事実施日の検討を行う。(土曜日の活用を含む)	経過・達成状況 ・従来の学校行事に加え、今年は生徒の発案により新たに「球技大会」(11月)が開催できた。全校での学級対抗行事として生徒は大いに楽しんだ。開催にあたっては昼休みを利用するなど工夫がはかられた。 ・上記のように、生徒会執行部からの意見で新たに球技大会が開催され、北高祭や運動会でも、生徒による実行委員会や生徒会が積極的に行事を企画運営に関わった場面も少なくなかった。とはいえ、まだ全体としては個々の生徒がその力を大きく伸ばす活動には至っていない。 ・学校行事の位置付けや行事による生徒の育成イメージ、他の教育活動との連携などに関する職員間での検討は、深めるには至らなかった。 ・魅力化プロジェクトを検討協議するなかで、学校行事への「松柏精神」の位置づけを考える機会を持った。	C	改善方策 ・職員会議や研修機会を設けて、学校行事の位置付けや目的・育てたい生徒の力、そして他の教育活動との連携などに関する職員研究協議の時間を確保する。 ・学校行事に関する生徒・保護者の意見や思いの集約するため、代議委員会の開催やアンケートの実施を行ない、生徒が主体的に取り組むことのできるプログラム、生徒が人間力をのばしかつ単発的ではないプログラムに改善する。 ・来年度は、上記2点を確実に推進することで、北高祭ならではの学校行事の姿を明確にする。 ・生徒会執行部生徒や部活動のリーダー的生徒が、各学校行事についても、主体的・自主的な企画・運営の力を発揮できるように、研修機会(講習会)を開催し支援指導する。 ・授業時数の確保・地域との連携(への発信)のため、学校行事実施日の検討を引き続き行なう。	
	地域との連携	どの生徒もボランティア活動に積極的に参加し、人間力を高めている。 社会貢献など、地域と連携して取り組んでいる。 ＜指標＞どの生徒も年に1回以上ボランティアに参加している。	・ボランティア活動を経験することにより、人間力を高め、社会に貢献しようという意識が向上してきている。 参加人数は述べ人数としては多数参加している。	・生徒全員が1年に1回はボランティア活動を行うよう繰り返し指導する。 ・ボランティア活動に取り組んだ生徒の感想を発表する機会を設ける。 ・部活動、学年全体でのボランティア活動を積極的に呼びかける。	・全体的な活動としては徐々にではあるがボランティア活動志望者が増加する傾向が見られる。	B	・今秋の大地震を経験して、ボランティア活動の意義を理解する機会を得た生徒も多いと思われるので、今後も積極的に呼びかけを行いたい。
募集定員の充足	中学校との連携	中学校との連携を組織的、計画的に取り組み、中学生並びに中学校の先生方に本校に対する理解を深めていただいている。 ＜指標＞組織的、計画的な取組みとなっており、募集定員の充足につながった。	・学校からの情報を発信している。 ※機関誌の発行(倉吉北高NEWS) ※学校説明会(毎月第3土曜日)の実施 ※オープンスクール(夏・秋)の開催 ※旬彩展を未来中心で開催(文化展示会) ※地域活動への積極的参加	・中学校区担当を出身中学校及び現在の居住区に配慮し配置、担当中学校へ倉北NEWSの配布をはじめ事あるごとに中学校に行き本校の情報を発信していただいた。 ・地域への行事及び保護者として園、小学校、中学校のPTA活動へ参加し多くの教職員が本校の情報発信を行った。 ・3年生が出身中学生の後輩に向けたメッセージ(進路先も記載)を作成し、各出身中学へ持っていく予定。(3・12現在準備中) ・出身中学校区へのボランティアの継続中(北栄町)。	B	・居住地域をはじめ、保護者のPTA活動等に参加し本校の情報発信をしていく。 ・数年前から実施していた、出身中学校区での奉仕活動を校区担当者または、居住している教職員で企画、実施し地元へ貢献活動をする。 ・卒業生が出身中学生の後輩に向けたメッセージ(進路先も記載)を作成し、各出身中学へ持っていく内容の確認および配布時期の再検討	
	部活動の勧誘	部活動への勧誘を組織的、計画的に取組み、優秀な中学生を獲得するとともに全体の志願者数も増加している。 ＜指標＞組織的、計画的な取組みとなっており、募集定員の充足につながった。	・強化指定クラブを中心に生徒勧誘した結果、県大会上位入賞、中国大会、全国大会へ県代表として出場、昨年は陸上競技ハンマー投げで国体入賞者を輩出した。	・受験者数を増やすのが、強化クラブの顧問をはじめとした、関係者が中心であった。今年は、学校全体で計画的に動けるような組織作りをしていきたい。 ・部活動顧問と校区担当者による情報交換会を実施する。 ・科・コース主任と校区担当者による情報交換会を実施する。	昨年、中部地区中学生の受験率は62%ぐらいであった。今年も受験率は62%であった。しかし、推薦・専願が昨年の人員を下まわった。来年度募集に向け、今年の問題点を出し合い分析し、来年度へ向け検討していかなくてはならない。	C	・学校説明会の内容確認、開催時期等の再検討。 ・オープンスクールの内容、開催時期の確認。 ・倉北NEWSの内容、配布時期・配布場所の検討 ・学校案内パンフレットの内容、配布場所等の検討 ・マスコミ機関との連携 ・ネットワーク・電子関係による情報発信の充実
	予備校・進学塾との連携	予備校・進学塾連絡協議会を設置し、連携して取り組む。 ＜指標＞予備校・進学塾連絡協議会を開催し、募集定員の充足につながった。	・以前は連絡会を実施していたが、ここ数年は実施していない。	・生徒募集のひとつとして塾、予備校との連携は必要。以前開催していた塾、予備校との連絡会を復活し募集定員の充足に繋げる。	・鳥取私塾の会の5月の総会に私立学校の紹介という企画で校長・進学部長・広報部長が出席した。その後、本校職員と関係のある塾には、オープンスクール・学校説明会のポスター掲示を依頼、学校案内パンフレットを紹介コーナーへ置いていただいた。	C	・現在は、本校職員と関係のある塾しかいろいろな協力は、お願いできないが将来的には、専任の職員を採用し企画、行動できるような部署が必要だと思う。
	広報活動	既成概念を超えた広報活動を工夫し、成果を上げている。 ＜指標＞広報活動が募集定員の充足につながった。	・PTAの会報誌の発刊、オープンスクールでの本校保護者役員(青友会)のオープンスクール参加保護者との話す会など企画され保護者同士の情報交換を行っている。	・「チーム倉北」の名刺を広報に活用する。 ・学校案内パンフレットを常に持ち歩き必要があれば本校の説明ができるように準備しておく。 ・HPの充実 更新の頻度を上げる。仕事の担当を明確にする。広報部、学年、青友会役員、部活動の保護者など協力体制がとれる組織を作っていく。	・教職員に「チーム倉北」の名刺を広報活動に活用。 ・学校案内パンフレットを事業所、公民館に置くことができた。 ・学校行事等のHPでの情報発信が、スムーズに行われようになった。	B	・専任の募集担当者、部署を設けた方がよい。 ・学校案内パンフレットの内容、配布場所等の検討 ・ネットワーク・電子関係による情報発信の充実 ・マスコミ機関との連携